

たじみん昼話 116

部分最適と全体最適の深い関係

ワクチン接種の普及が進み、コロナ禍を克服する兆しが見えてきたかのように思える。しかしそれは、日本を含む世界でも有数のお金持ち国だけの話だ。

まだ、ワクチンの購入予算が工面できず、ワクチン接種が進まない低所得国が、60%以上存在するからだ。

そこで、この格差を解消するために、COVAX というシステムが考案された。これは、高・中所得国が低所得国と自国のワクチン費用を一定の比率で負担するというシステムだ。

このシステムの目的は2つだ。

第1は、他国の人も助けたいという志からくる、人道支援だ。

第2は、高所得国家の自分たちを守るためだ。

ワクチンの発症抑制効果は、この変異種の変異度合いに反比例する。だから、低所得国のワクチン接種を進めて変異種の発生を抑制しなければ、その国でコロナ禍が蔓延するばかりでなく、ワクチン防御網を破壊する新たな変異種の発生を許すことに繋がる。そしてこれが世界に拡散し、再び新しいコロナ禍が世界中に拡散することが予想されるからだ。これでは自国を守れない可能性が出てくる。

だから、高・中所得国がワクチン支援することは、低所得国を助けるという人道的支援面に加え、自分の国も含めた世界中の国々を助けるという全体最適を通して、自国を守るという部分最適を図ることが出来るのだ。

多治見高校の受験が団体戦だと言われるゆえんもここにある。他の生徒たちと教えあう全体最適を図ることで、自分の学習効果を高める部分最適を図ることに繋がるからだ。

ちなみに我が国は、COVAX システムへ172億円拠出することを決定しているらしい。そして厚生労働省の担当者は、途上国への供給に関する寄付金などについても、今後検討するとしている。